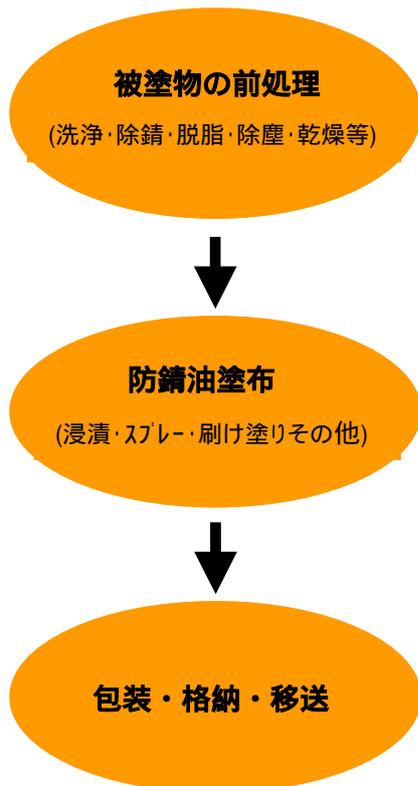


防錆管理

防錆管理とは、環境影響に起因する鉄製品の錆発生を抑制することにより、鉄製品の品質と性能の悪化をなくすことを目的とします。防錆手段の効果を管理し、防錆工程における修正が必要な場合には直ちに処置を行う必要があります。防錆油の使用は防錆手段のひとつで、その中で防錆油の管理は、非常に重要な工程です。

防錆油使用方法



防錆油の管理

防錆油は、常に新油あるいは新油に近い状態であることが望ましいですが、防錆油を防錆タンク使用により浸漬塗布する場合、前工程から持ち込まれる他油剤や、被塗物を加工する際に発生したスラッジその他夾雑物の混入が考えられます。従って、防錆タンク内の防錆油の状態は常に変化することを理解し、定期的な油管理が必要です。例えば下記に示すような試験項目を設け、予め決定した基準から外れた場合には、油の更新を行う必要があります。

- ・防錆添加剤有効成分量
- ・他油の混入
- ・切り屑、スラッジその他夾雑物
- ・混入水分
- ・引火点
- ・粘度
- ・外観
- ・膜厚
- ・不揮発分(溶剤型)
- ・防錆試験(塩水噴霧試験等の促進試験)

環境因子の影響

防錆管理においては、防錆油の劣化に起因する錆発生トラブルを未然に防ぐことが大切です。また、錆発生トラブルを防止するには、被塗物の保管において、下記に示すような環境影響にも十分な対策が必要です。

環境影響	備 考
温度	高温時には、油ダレにより、防錆油の膜厚を低下させる。
湿度	高湿が錆発生を促進させる条件となる。
粉塵	グラインダー粉等の工場内発生物や道路付近での粉塵。付着した粉塵が錆発生要因となる。
結露	昼夜の温度差が大きい場合、被塗物表面に水滴が付着する。特にビニル袋詰め等の密閉状態で保管する場合には、発生した結露が蒸発しにくいいため注意が必要。
指紋	被塗材を素手で触っていた場合、指紋部分から錆が発生しやすい。
汗	夏場に作業者が知らずに被塗物に付着させる場合が考えられる。塩分、乳酸等の汗成分が錆発生の原因となる。
風	風が腐食因子を運んでくる場合がある。また、海岸に近い場合は、潮風の塩分が錆を促進させる。
排気ガス	交通量の多い道路付近では注意が必要。硫黄酸化物等が錆の原因となる。
腐食性ガス	工場ばい煙その他、腐食性ガスが悪影響を及ぼす。

()被塗物を海上輸送される場合は、上記の悪条件を満たすことが多いので、特に注意が必要。